平成２９年度　野田市小中学校児童・生徒自然科学作品展

平成２９年９月９日（土）～１０日（日）

◇科学論文

	出品点数	入賞者数	県出展数
小学校	２６８	５６	4
中学校	１６３	３２	3
合　計	４３１	８８	7

◇科学工夫工作

	出品点数	入賞者数	県出展数
小学校	７９	１８	6
中学校	１３	4	2
合　計	９２	２２	8

◇標本

	出品点数	入賞者数
小学校	１１	2
中学校	3	1
合　計	１４	3

◇合計

	出品点数	入賞者数	県出展数
小学校	３５８	７６	１０
中学校	１７９	３７	5
合　計	５３７	１１３	１５

◇入場者数

１日目 751 名、２日目 1081 名、合計 1832 名

（H28：1906 名、H27：2095 名、H26：1872 名）

◇小学校講評

（科学論文）

低学年・身近な植物、生き物に興味を持ち、継続観察した力作が多かった。

・論文の型式が整っている作品が多くあった。

・まとめ方に、数値化・グラフ化等の工夫があるとさらによい。

中学年・理科の時間に学習する生物に関する作品が多かった。

・研究を行う動機がしっかりしているものが多かった。

・全体的に生物に関する作品が多く、根気よく観察を行った作品が多かった。

高学年・動機やきっかけから、最後のまとめ・感想まで、研究が一貫している作品が多かった。

・観察を丁寧に行い、変化をしっかり追っている作品が多かった。

・全体的に、次への課題へとつながる部分があるとさらによかった。

（科学工夫作品）

・低学年では、遊んで楽しめる低学年らしい作品が多かった。
・中学年では、電気・星・月など、学習したことを生かした作品が多かった。
・高学年では、加工精度が高く、つくりが丁寧な作品が多かった。
・途中で動かなくなる作品もあるので、搬入前に補強させたい。

（標本・小中）

・押し花、葉脈、昆虫、鉱物、化石の出品があり、骨格標本も１点あった。
・全体的に作品数が少ないので、理科の学習等を通して意欲の向上を図りたい。

◇中学校講評

（論文）

１年生・実生活に関わる作品が多かった。
・データのまとめが丁寧で、表やグラフを工夫している作品が多かった。

２年生・継続研究により、昨年度の研究を深め、視点を変えたり広めたりした作品が見られた。
・データがしっかりしており、表やグラフ、写真にきちんとまとめており、読みやすい論文が多かった。

３年生・実験の技術が高い作品や、発想が豊かな作品があった。
・実験の回数や、方法についてはもう一工夫が必要である。

（科学工夫作品）

全　体・日常生活の中から思いついたもの、豊かな生活に関与するもの、昨年度の課題を生かしてつくりあげたものが見られた。

◇成果　・２日間、多くの児童生徒及び保護者、市民の方が参観し、自然科学作品展に対する関心の高さを感じた。１日目は土曜授業と重なっており、午前中は、若干、少な目であったが、午後からは児童生徒と一緒に来場する方が増えた。
・出品した児童生徒が多く来場し、他の作品と比較したり、また、次年度の参考として見たりしているような姿もあった。

◇課題　・論文としての型式が整ってきてはいるが、考察のまとめ方などにはまだ課題がある。日頃の理科の授業等を通して、レポートの描き方等を引き続き指導することが必要である。
・工夫工作の出展数が少なくなっている。理科の授業等で意欲付けを行うなどの対策が必要である。